

りつめいかんじんぶつでん
立命館人物伝

立志の気概

りつし きがい

なか がわ こ じゅう るう

中川小十郎

りつめいかんそつりつ
立命館創立ものがたり



学校法人 立命館

中川小十郎年表

年	年齢	出来事
1866 (慶応2)		・丹波国馬路村(現在の京都府電岡市馬路町)で、父禄左衛門・母さきの長男として誕生
1869 (明治2)	3	・西園寺公望が私塾立命館を創設 (現在の京都御苑内 翌年閉鎖)
1873 (明治6)	7	・致遠館(現在の小学校)へ入学 (田上綽俊の塾へも入塾)
1879 (明治12)	13	・叔父の中川謙二郎とともに、東京へ移る。東京府第一中学(現在の都立日比谷高等学校)に入学
1881 (明治14)	15	・成立学舎(塾)に通う
1884 (明治17)	18	・大学予備門に入学
1891 (明治24)	25	・帝国大学(現在の東京大学)に進学
1893 (明治26)	27	・帝国大学法科大学政治学科を卒業 ・文部省へ入省
1895 (明治28)	29	・西園寺公望文部大臣の大臣秘書官になる

りつめいかんがくえん 立命館学園のあゆみ

年	出来事
1869 (明治2)	・西園寺公望が私塾立命館を創設 (現在の京都御苑内 翌年閉鎖)
1900 (明治33)	・私立京都法政学校の設立が認可される (創立記念日5月19日) ・清輝楼(京都市上京区東三本木仲ノ町)にて開校式
1901 (明治34)	・校舎を清輝楼から広小路新校舎に移転 (上京区清和院口寺町東入ル)
1903 (明治36)	・京都法政学校付設「東方語学校(中国語・ロシア語開講)」開設 ・専門学校令に準拠し、私立京都法政専門学校に改組
1904 (明治37)	・私立京都法政大学と改称
1905 (明治38)	・西園寺から「立命館」の名称継承を許可される (「立命館」の扁額を寄贈される)

立志の気概

なかがわ こじゅうろう

中川 小十郎

りつめい かんそう りつ
立命館創立ものがたり



まんが / 富士山みえる

監修 / 立命館 史資料センター

*1 旧暦の慶応2年1月4日。

*2

立命館の創立者
中川小十郎は
日本の近代化に
多方面で貢献した人です



その中でも日本の将来を
支える人づくりである
「教育」にかける思いは
ひと二倍強いものが
ありました

現在の京都府亀岡市馬路町。

*3 苗字帯刀を許された有力農民。

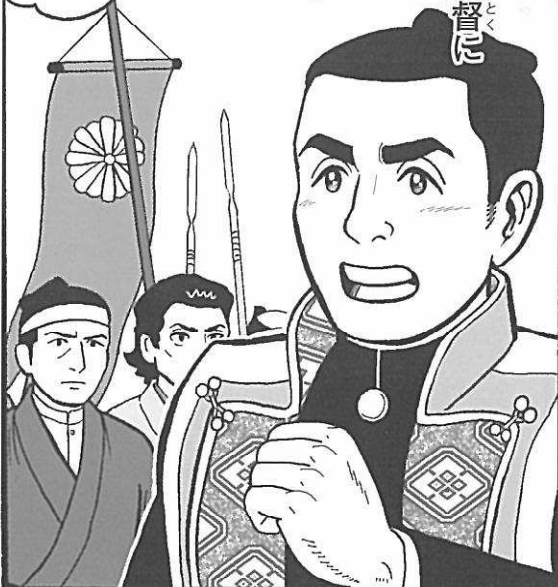
小十郎は1866年
2月18日 丹波国
馬路村で生まれ
ました



父は地元の郷士
でした

新政府軍の
山陰道鎮撫総督
公家の
西園寺公望が
任命されます

旧幕府軍を
倒すぞ!!



生まれてまもなく
265年も続いた徳川
幕府が倒れ旧幕府軍と
新政府軍が京都で
戦いをしました



鳥羽伏見の戦い(1868年)

新政府軍が勝利し
明治時代が始まります
(1868年)



*4 明治時代の中頃まで、個人がつくる学校は私塾・塾と呼ばれました。





負けず嫌いの
ガキ大将

とても活発な少年
だったようです



さて 少年時代の
小十郎はというと

女の子みたいな
髪型してるけど
女の子じゃないぞ!



先生の
家から
学校へ
通うよ!

田上は自宅で
塾も開いて
地元の
子どもたちを
書生として住み込ませて
いました



田上先生は
小学校の
校長先生だ

7歳

致遠館(現在の小学校)では
漢学者の田上紳俊と
出会います
あはれです



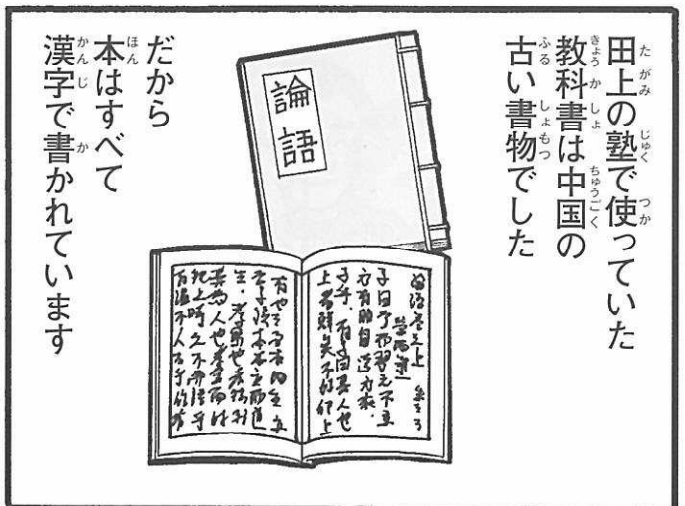
懸命に勉強して
成績も優秀でした

昼は小学校
夜は田上から
習字と漢文を
習います



田上先生のおかげで
「漢詩」をつくるのが
大好きになったよ

漢詩は小十郎の生涯を
通した趣味になります



だから
本はすべて
漢字で書かれています

田上の塾で使っていた
教科書は中国の
古い書物でした



小学校を卒業した小十郎は
田上の転任先に同行して
勉強を続けます

12歳

中川は
優秀だからな



そんな時小十郎に
あの謙二郎から
手紙が届きます

終わりはない
君はもつと勉強して
日本の発展のために
尽くす人間に
なつてほしい



それには東京の大学を
目指しなさい

文化の中心地
東京で学ぶのが
一番だ

やっぱり
東京で
勉強したい!!
でも親には
僧侶になれと
言われて
いるし:

さつそく謙二郎が
親を説得に訪れます



日本の近代化を担う
人材が今は必要
なんです!

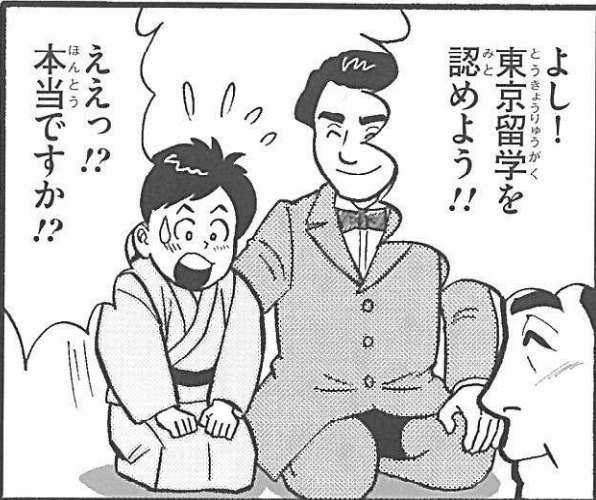
小十郎には
その才能が
ある!!

ぜひ東京で
学ばせてあげて
ください!!



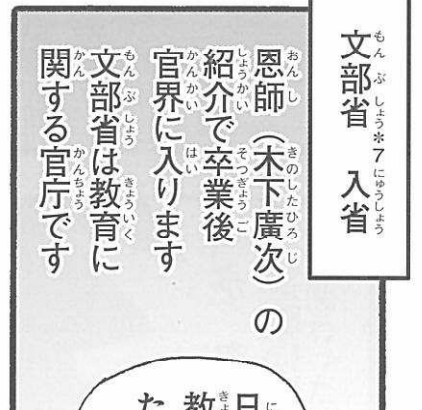
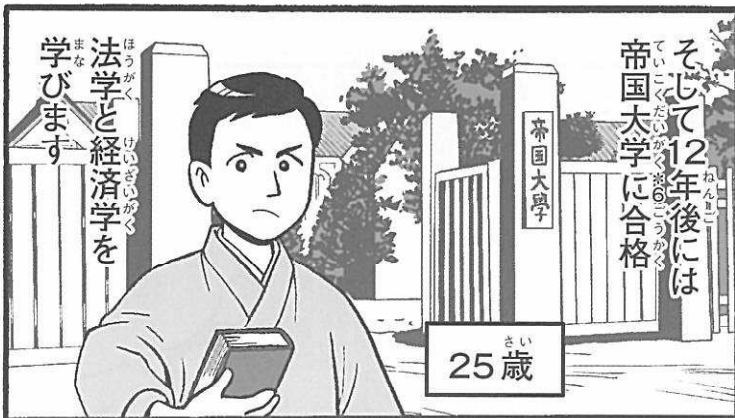
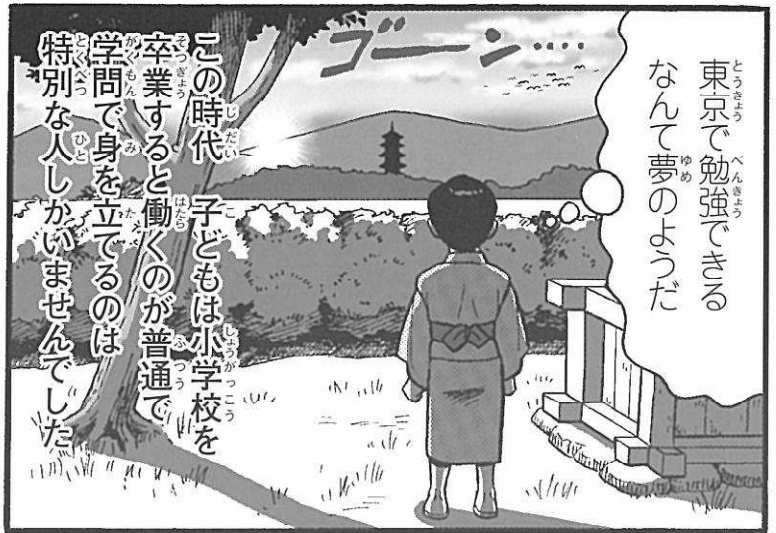
謙二郎も
西園寺様について
東京で学んで

ふーむ
科学者として
新しい国づくりを
担っている...



よし!
東京留学を
認めよう!!

ええっ!?!
本当ですか?!



*6 現在の東京大学。

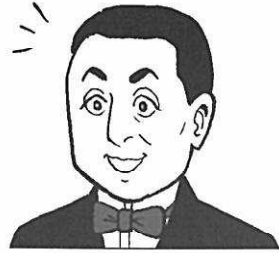
*7 現在の文部科学省。

文部省時代の主な
小十郎の活躍は

西園寺公望 文部大臣時代

井上毅 文部大臣時代

あの
中川謙二郎
の甥か！



京都帝国大学・
日本女子大学校
の創立に従事
しました

高等学校
(旧制高校)の
制度設計を
担当しました



*8 現在の京都大学。

*9

小十郎は学生時代に女子教育についての論文を発表していました。

中川小十郎は
できる男だ！
私の秘書官に
しよう！

異例の
早期出世でした

29歳

京都帝国大学の
設置では教授を
人選したのだ

京大の初代事務局長に
選ばれます



*10

政権交代に巻き込まれた、小十郎にとって不本意な退職でした。

日本女子大学の創立では
西園寺のすすめで
創立事務幹事長
になりました

日本の将来のために
女子の教育は
とても大切です！

良い学校を
つくりましょう！

こうして文部省時代に
学校を設置経営する
経験を積み上げたのです

が突然その文部省を
退職に追いやられます

日本女子大学創設者
成瀬仁蔵



話は大阪の実業家
広岡浅子に移ります



1849 (嘉永2)年
広岡浅子は豪商三井家の一つ
京都出水三井家の六代目当主
高益の四女として
生まれました



オホホホ

1865 (慶応元)年
17歳になった浅子は
加島屋の八代目当主
広岡久右衛門正饒の
次男である
広岡信五郎のもとに嫁ぎます



明治時代では珍しい
女性実業家で
女性の教育にも熱心でした

浅子は小十郎も関わった
日本女子大学の創立に
関係していました



成瀬さん!
私もあなたの
女子教育の
理念に賛成です!!

私も
協力します!!

しかし 加島屋で始めた
銀行などの新事業が不振で
経営が苦しくなつて
いました



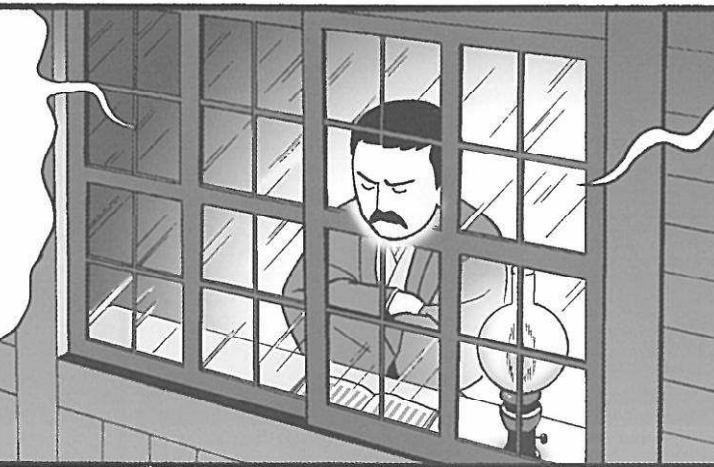
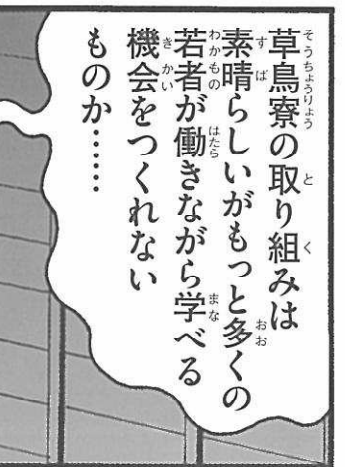
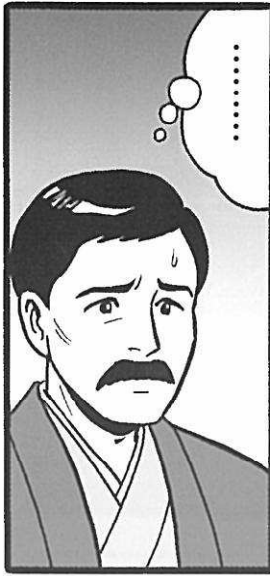
あかん!
このままでは
加島屋は倒産や!

一体
どうすれば...!?

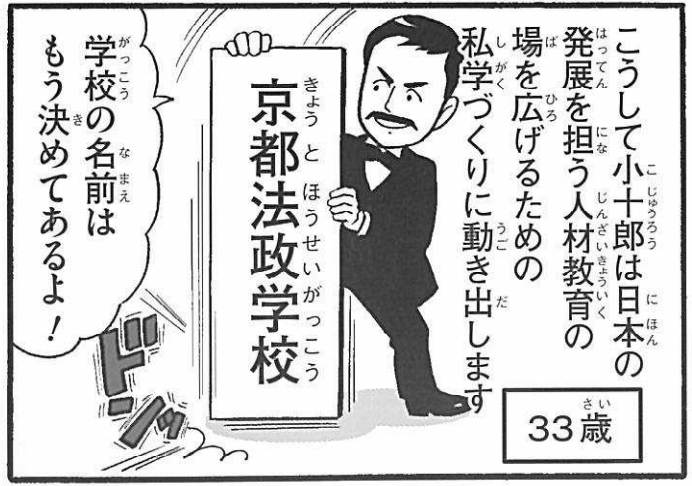








*11 当時の義務教育は4年間でした。



小十郎の学校創立の計画に大阪・京都の多くの実業家が支援をします

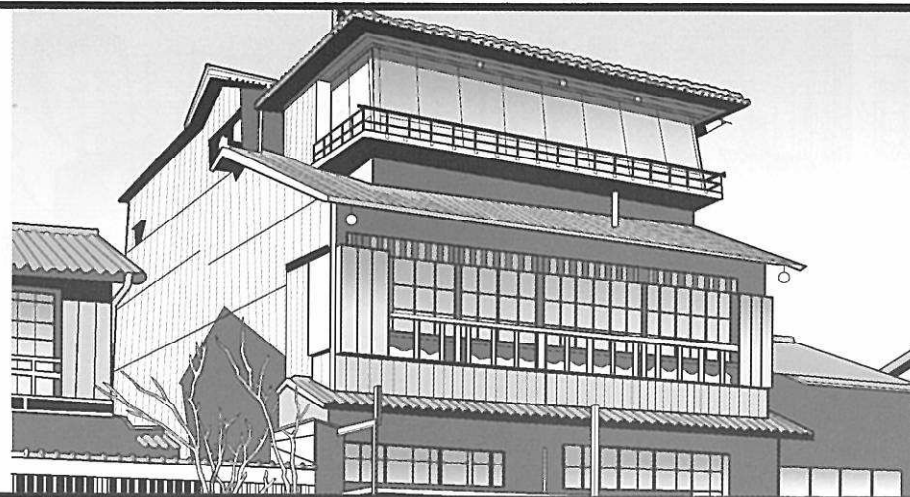
- 浅子の加島屋から 5000円無担保融資 (現在の約2000万円相当)
- 住友友純 (西園寺公望の弟) から1500円の寄付

みなさんの期待に応えねば!!

などなど...

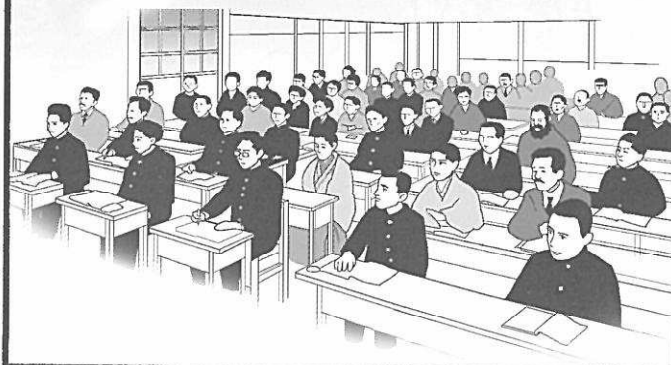
*12
後に大同生命保険株式会社となる。現在の朝日生命保険相互会社とは別の会社。

1900 (明治33) 年
 京都法政学校が
 鴨川河畔の「清輝楼」で
 開校します



まもなく京都御苑東の
 広小路に新しい校舎が
 できて移ります

第一期入学者は
 303名
 学生の多くが
 学んだのは
 「民法」や
 「商法」などの
 実用的な
 法学でした



講師陣も
 帝国大にひけを
 とらないぞ!

優れた講師によって
 私学でも
 質の高い授業が
 受けられるんだ!!



そして
 もう一つの特徴は
 昼間働いている若者が
 通えるように
 夜間に
 授業を開く
 ことでした



働きながら
 学校へ通えるなんて
 うれしいね!

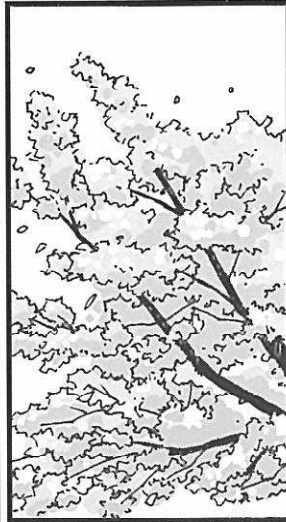
ホント
 ホント!!
 こんなに
 ありがたい
 ことはないよ

夢みたいだ



*13 講師のほとんどは京都帝国大学の教授でした。

なぜ「京都市立立命館」
という校名が「立命館」に
変わったのでしょうか？



創立から5年後
小十郎の提案でした

西園寺閣下!!
京都法政学校の名前に
「立命館」を
使わせてください

おおっ!!



君の家とは幕末以来の
関係だからな
私が志半ばにした
立命館の精神を
引き継いでもらおう

ありがとう
ございます!!



ところで
私塾「立命館」
の由来は
『孟子』から
ですか？

その通り

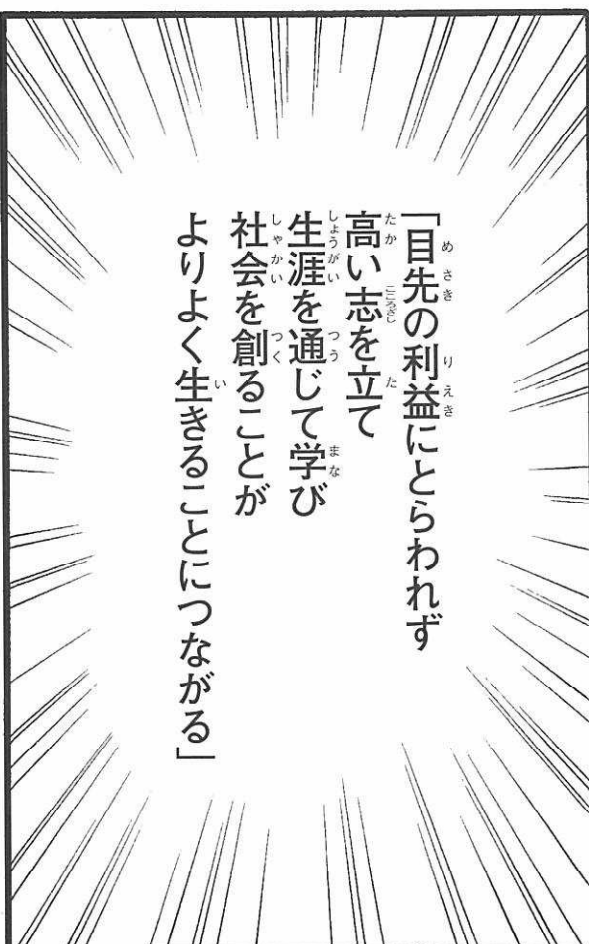


中国の書物『孟子』の中にある
「尽心章」から
とったのだ

もともとは
「人の生き死には
天命によって決められている
だから
生きている間は勉強に努めて
天命を待つのが人間の本分である」
という意味だが



「目先の利益にとらわれず
高い志を立て
生涯を通じて学び
社会を創ることが
よりよく生きることにつながる」



私はこれを
次のように
解釈して
君に送りたい



*14 1905年の西園寺の扁額は1908年に焼失。



しっかりとその意志を
引き継いで学校の指針と
していきます!!



すばらしい!!
「立命館」とは
正に私が求める
教育理念で
あります!

この名をもって君の学校を
より意味のあるものに
してもらいたい

現在の学宝は再度贈られたもの。

この扁額は
立命館学園の
学宝に指定されて
います*14



西園寺のこの言葉は
本人の揮毫とともに
扁額になっています

1913(大正2)年
学校を財団法人化して
「私立立命館大学」と改称します
その後 学校法人化して現在の
「立命館大学」に至っています

この学び舎で
育った彼らが
日本の将来を
つくって
いくだろう

立命館こそ
私の理想を
表すものである



その後 西園寺総理大臣の秘書官や
元老西園寺の私設秘書を務めます
大阪の加島屋時代に
立命館を創立したのは
協力者にも恵まれ
偶然の仕合わせだった*15

多くの若者に
学びの道を
開くことができた

*15 めぐり合わせ。

おわり

小十郎上京物語

中川小十郎は1879(明治12)年9月8日、叔父の中川謙二郎に伴われて上京しました。小十郎13歳の時です。ここから32歳までのおよそ19年間、東京に滞在していました。当時の東京は文明開化まっさかり。道路には煉瓦が敷かれ馬車が走り、洋風建築の建物を照らすガス灯のそばを、洋服を着た婦人が歩くなど、江戸の街は近代的な東京の街へと日ごとに変化していきました。小十郎にとっては、見る物聞く物全てが新しく、驚きに満ちたものだったと思われれます。

小十郎の学習風景

小十郎は上京後すぐに、東京府第一中学(現在の日比谷高等学校)に入学し(当時の学校は今と違って9月入学)、叔父中川謙二郎の家に寄宿しました。謙二郎の家には後に文部大臣になる岡田良平や、その弟で、帝国大学法学部教授や宮内大臣になる一木喜徳郎らがあり、彼らとともに勉学に励み、生涯の友となっていきました。

小十郎が目標としていた帝国大学進学は、中学校(現在の高等学校)小十郎の場合、第一(中学)卒業後に、私立の受験準備塾(小十郎の場合、成立りつがく)に通い、まずは大学予備門への入学を目指します。そしてそこへ合格してさらに勉強した後、ようやく帝国大学の入学資格を得られるという、非常に険しい道のりでした。小十郎は1884(明治17)年9月、志願者1200人、合格者144人(12%)という難関を突破し、大学予備門へ入学します。これを1889(明治22)年7月に卒業し、9月に東京専門学校(現在の早稲田大学)へ入学します。そして、1891(明治24)年、ようやく帝国大学へと入学したのです。

このような勉学の日々は、遊びたい盛りの青年には苦痛だと感じることもあったのでしよう。時には怠け心で勉強に身が入らない日々もあつたようです。小十郎は自分の怠け心を戒めるような漢詩や、自分か東京へ出てきた意味を再確認し、目標達成のために気持ちを奮い立たせるような漢詩(「立志歌」)を詠んでいました。そういう意味で中川小十郎は、天才肌というよりは、いまの多くの人たちと同じように、努力を積み重ねていった人だったのです。

立志歌

風吹又風来 不期何所臻 朝洗東洋去
 夕吹又夕来 人事何如身 似此风尘
 乍飘少海深 人事何如身 似此风尘
 英雄何處在 飄蓬何處心 海宇又风尘
 嗚呼大男兒 須臾奮剛腸 嗚呼大丈夫
 須臾鐵石腸 一揮排歎氣 一掃日月
 天壤亦地裂 茫茫不容者 不惶惶
 親見頭顱 碎骨 碎骨 碎骨
 請見頭顱 碎骨 碎骨 碎骨
 不足為 不足為 不足為
 拔山氣 拔山氣 拔山氣
 與君共 與君共 與君共
 不隨 不隨 不隨



維時明治十五年十月
 石居居士中川重興

小十郎の交友関係

小十郎が留学していた頃の東京は、同じように帝国大学を目指す若者で活気に満ちていました。小十郎は岡田良平や一木喜徳郎だけでなく、東京で多くの学友と出会いながら、厳しくも充実した学生生活を送っていました。特に苦勞をした時代の友人は一生の友となるようで、大学予備門の同期生だった織田萬や岡村司らは、京都法政学校の講師として小十郎の教育事業へ協力していきます。織田萬は1931(昭和6)年には、立命館大学の名誉総長に就任します。

また同じく予備門時代には塩原金之助(後の夏目漱石)との交友がありました。小十郎と漱石は学校終わりに遊んでいた友人だったようです。漱石との関係を小十郎は次のように回想しています。

大学予備門時代の学友間の交際は概して頗る淡泊なものであって、我輩として特に記憶に存していることもないが、我輩等少数者仲間わがはいらの倶楽部くらくぶのようなものがあつたことだけは中々忘却なかなぼうきやうすることができない。神田かんだの裏神保町うらじんぼうちやうに末廣すえひろという下宿屋げしゆくやがあつて、そこに漱石そうせきなどが下宿していたので、我輩等わがはいらは学校の帰りにそこへ立ち寄つて漫談まんたん(無駄話むだわ)をやるのが例れいであつた。漱石そうせきは何時いつも部屋へやの片隅かたすみに寝転ねころんでいて、黙々もくもくとして仲間なかまの所謂漫談いわゆるまんたんを聞いていたのであつた。今いまからどう考かえても此この塩原金之助しおばら金のすけが夏目漱石なつめそうせきになつたことが真実まことだと思おもへない位だ。併しかし彼は「人間にんげんというものは妙なもので、真面目まじめになつて勉強べんきやうすれば今迄いままで少しもわからなかつたものも瞭然りやうぜんと分かる様ようになる」と言いっているから、その後あとよほど勉強べんきやうをしたのに相違さういない。当時とうじはミルクホールミルクホールもなくカフェカフェもなかつたので、我々われわれが毎月まいつき集あつまつて何なにをしているのかと言いえば、冬ふゆならば焼き芋やきいもを食くつ、



夏なつならば蒸むし芋いもをやる、そして余程よほど奮発ふんぱつして盛りそばせいそば一杯いっぱいが関せきの山やまだつた。

その後ご、帝国大学ていこくだいがくを卒業そつぎやうした後の小十郎こじやうらうと漱石そうせきの関係かんけいは、それぞれ違ちがう土地とちへ行いつたために長ながくは続つづきませんでした。小十郎こじやうらうの青春時代せいしんじだいの大おほ切せつな思おもひ出でになつていました。

なかがわ こじゅうろうねんぴょう
中川小十郎年表

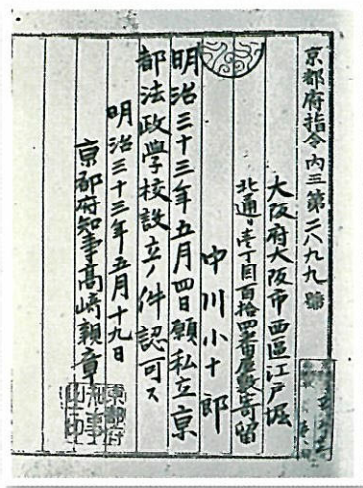
年	年齢	出来事
1944 (昭和19)	78	・自宅で死去。等持院墓地に埋葬される
1931 (昭和6)	65	・立命館総長に就任する
1920 (大正9)	54	・台湾銀行頭取に就任する ・この頃から、西園寺公望の私設秘書として活動をはじめ
1913 (大正2)	47	・立命館館長に就任する
1906 (明治39)	40	・西園寺公望の内閣総理大臣秘書官に就任する
1902 (明治35)	36	・大同生命保険株式会社の筆頭取締役就任する
1900 (明治33)	34	・私立京都法政学校の設立を申請する (5月4日)
1899 (明治32)	33	・京都法政学校の創立事業を開始する
1898 (明治31)	32	・日本女子大学校創立事務幹事長に就任する ・文部省を退職し、広岡家(屋号加島屋)の経営する加島銀行理事、広岡家鉱業部理事に就任する
1897 (明治30)	31	・京都帝国大学(現在の京都大学)設置のための事務局長になる

りつめいかんがくえん
立命館学園のあゆみ

年	出来事
1945 (昭和20)	・末川博、立命館大学学長に就任
1944 (昭和19)	・中川小十郎死去
1940 (昭和15)	・西園寺公望死去。西園寺を学祖とする
1933 (昭和8)	・京大瀧川事件で退官した教授・助教授ら18名を招聘
1928 (昭和3)	・立命館禁衛隊を編成
1926 (大正15)	・立命館大学出版部の開設
1922 (大正11)	・大学令に準拠し、立命館大学へ改組
1913 (大正2)	・財団法人立命館設立が認可される ・学校名を私立立命館大学、私立立命館中学と改め、
1908 (明治41)	・火災により、広小路校舎全焼
1906 (明治39)	・私立清和普通学校を私立清和中学校と改称
1905 (明治38)	・付属学校として、私立清和普通学校を創設



西園寺公望 (文部大臣時代)



京都法政学校認可書
学校の創立記念日「5月19日」は
京都法政学校の設立が認可された日にちなんでいます



中川小十郎 (文部大臣秘書官時代)



清輝楼

このマンガは、『立命館百年史』や「中川家史料」(立命館 史資料センター所蔵)の研究成果に基づいて構成されており、ストーリー展開の各所に新出史料の発見による成果が含まれています。このマンガを通じて、皆さんも創立者の「立命館」に対する情熱に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

マンガの関連史料とその解説は立命館大学 Web サイトでご覧いただけます。QRコードを読み取るか、以下の URL を入力してご覧ください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/features/nakagawakojyuro/>



2016年11月第4版発行
発行 学校法人立命館 広報課
監修・資料提供 立命館 史資料センター
作画 富士山みえる
デザイン エジソン
制作 株式会社家の光出版総合サービス
印刷・製本 精文堂印刷株式会社

この冊子に掲載の記事、イラスト等を無断で複写、複製することを固く禁じます。

この冊子は2020年新型コロナウイルス感染症対策に伴うネット授業での配信を目的として、許諾を得てpdf化されたものです。他の目的での配信を禁止します。 2016/11 10,000
2020年4月立命館 史資料センター